

2026.02.05. 木曜礼拝「神の武具」

エペソ人への手紙6章&聖餐式

Leitu 牧師

一緒に祈りましょう。主よ、あなたはふさわしいお方です。私たちの賛美にふさわしい唯一の方です。主よ、今夜、それをあなたにお捧げします。レイトゥ牧師をあなたに感謝します。彼の従順さがゆえに、御言葉において私たちは祝福されています。主よ、感謝します。彼を建て上げ、励まし、彼を愛し、あなたの働きを続ける力を与え続けてください。今夜共にいてください。私たちは、あなたの御言葉に入る準備ができています。そして何より、私たちは喜んでそうします。あなたの御言葉が私たちの人生を変えてくださいます。ですから、あなたの御言葉でのこの時間を祝福くださいますように。イエスよ、あなたの御名によってこれらのことをお願いします。アーメン。

アロ〜ハ！！（会衆：アロ〜ハ！！）どうぞご着席ください。皆さん、こんばんは。カルバリー・カネオへによろこそ。オンラインの方も歓迎します。まず最初に、J.D.牧師とご家族のために祈ってくださる皆さんに感謝します。J.D.の奥様、ケリー・ファラグの人生のお祝い、永遠の命のお祝いは、今度の土曜日2月7日午前11時から、この教会で行い、その後昼食会もあります。オンライン・チャーチのために、その礼拝の様子は、ハワイ標準時の午前11時からすべて、JDFarag.orgのウェブサイト、モバイルアプリ、Roku、ソーシャルメディアプラットフォームでライブ配信します。それから、J.D.牧師は、来週の木曜日2月12日（木）から説教壇に戻ります。2月12日からです。サモア人の私たちは、幸せなときにこんな風に言います。チャーフー!! ―（爆笑）―

皆さん同様、もっといい状況であればよかったです。でも、私たちの牧師が戻ってくることに、祝福され、幸せです!! ―アーメン。（会衆：アーメン。）

J.D.牧師は、「ゼカリヤ書」の節ごとの学びを再開する前に、妻の死について、率直に語り、「エゼキエル書24章15節から27節」で題材の学びをします。また、2月15日（日）から「聖書預言・アップデート」と「説教・メッセージ」を再開し、すべてオンライン・チャーチにもライブ配信します。日曜日は、2つの礼拝があって、午前8時30分からと10時45分からで、両礼拝とも、マック牧師が、「ローマ人への手紙」を学び進めています。木曜日の夜の週半ばの学びは、午後7時から、私が「エペソ人への手紙」を進めてきています。第一火曜日の午後7時から、教会体として集まって、祈り会をします。次回の祈り会は、2026年3月3日（火）、この礼拝堂でします。今夜、私たちは「エペソ人への手紙」を学び終えます。今夜のメッセージのタイトルは『神の武具』です。6章全てを見ていきます。私たちはまた、聖餐式に与りながら、イエスの生涯とその犠牲を思い起こします。まだ聖餐式セットを取っていない方は、後ろの扉のところにあるので、入手しておいてください。今夜はたくさんすることがあります。頭を下げ祈り、神に御言葉の時間への祝福を願ひしましょう。

天のお父様、私たちはあなたの御前に参り感謝します。私たちをどれほど愛し、御言葉を通して教えてくださることに。私たちは、福音を受け入れた瞬間、あなたが私たちの人生にくださった変化、即座の変化を決して忘れません。だから、あなたに感謝すべきことがたくさんあります。イエスよ、決して十字架を忘れません。今夜、あなたが私たちのために捧げられた犠牲を思い起こすのです。主よ、私たちはあなたを愛し、あなたを礼拝します。今夜、あなたの聖霊の御力によって私たちに教えてください。イエスの御名によって祈ります。アーメン。「エペソ人への手紙6章」、1節から

― エペソ 6 : 1 ―

子どもは両親に従いなさい。神は、親が子どもを監督する権威を認めておられるのです。従うのは正しいことです。

― エペソ 6 : 2 ―

「あなたの父と母とを敬え。」これは、「十戒」の中で対人関係について言われた第一の戒めで、その後に約束があります。

― エペソ 6 : 3 ―

つまり、「父母を敬うなら、あなたは幸せになり、長生きする」（出エジプト20・12）という約束です。

子どもたちよ、早く学びなさい。親に従えば祝福が来ます。また子どもたち、学ぶのは、不従順には、その結果がやって来ること。「箴言13章24節」が語ります。

― 箴言 13 : 24 ―

むちを控える者は自分の子を憎む者。子を愛する者は努めてこれを懲らしめる。

私は祝福されていますよ。親から十分に愛されているのがわかる。―爆笑― 皆さん、先走りすぎですよ。―爆笑― お仕置きをすれば、私の悪行が抑えられるとわかっている。効き目がありました。でも、母は愛情深い人でした。お仕置きの後、私に話してくれました。なぜ私を叱らなければならないのか、愛情を込めて説明してくれました。子どもたちの中には、不従順を続け、大人になっても、繰り返しその結果に苦しむ

子もいます。学習し、行動を修正し、これらの人生の教訓を大人になっても持ち続ける子もいます。両親を敬うとは、両親を愛し、尊敬することです。高齢の両親を介護することは、両親を敬うことでもあります。3節で、神は、自分の父と母を敬うことでの約束を私たちにくださっています。あなたにとって、物事はうまくいき、長生きできます。「エペソ人への手紙6章」、4節、

— エペソ 6：4 —

両親にもひとこと言っておきます。子どもを、いつもうるさくしかりつけて反抗心を起こさせたり、恨みをいだかせたりしてはいけません。かえって、主がお認めになる教育と、愛のこもった助言や忠告によって育てなさい。

イエスが教会を愛する方法は、父親が子どもをどのように愛し、どのように接するべきかの完璧な模範です。そう、イエスは愛情深く、優しく、親切で、ご忍耐強く、でも確固として強く、その御言葉の中で父親たちに子どもへの扱いについて指導しておられるとお祈り揺がれません。イエスのように、父親は愛情深くありながらも毅然としていなければなりません。子どもを育てる上で、子どもに関する主の指示を守るとは非常に重要です。同様に、子どもたちも両親を敬い、愛し、尊敬し、従順でなければなりません。人生で、両親の私たちは誰でも失敗します。私たちは、主が私たちの人生に規律と是正の手を差し伸べてくださったことを経験しました。私たちがキリストにあって成熟するにつれて、イエスが私たちに正してくださることを理解し、受け入れます。イエスの私たちへの愛がゆえです。だから私たちも、イエスが愛と忍耐と優しさで、私たちを愛し、正してくださるように、子どもを愛し、正すべきです。「コロサイ人への手紙3章」、20節と21節、

— コロサイ 3：20 —

子どもたちよ、すべてのことについて両親に従いなさい。それは主に喜ばれることなのです。

— コロサイ 3：21 —

父たちよ、子どもたちを苛立たせてはいけません。その子たちが意欲を失わないようにするためです。

怒る子どもは、意気消沈し、落胆します。親の接し方が原因で反抗的になって、それが問題になり得ます。子どもに対する過度の身体的・心理的虐待は、長期的悪影響を及ぼす可能性があります。その一方で、愛と励ましで育てられた子どもは成長し、両親を敬い、愛し、尊敬します。子どもに加害することは、子どもを軽蔑し、嘲笑し、馬鹿にし、いじめ、挑発し、侮辱したりすることです。スポーツのコーチとして私は、子どもを励ますどころか、落胆させる親の行動や言動を見てきました。多くの親は、子どもを通して自分の人生を生きようとします。例えば、父親が息子にNFLのクォーターバックになることを望むとします。一方、息子はIQが140以上と高く、天才で、彼はスポーツに興味がない。彼がしたいことは、できるだけ多くの本に浸って読むこと。彼はスポンジのように何でもあらゆることを学びたがるから。神は、子どもたち一人ひとりに独特な賜物を授けて祝福くださいました。アスリートの子もいれば、学者の子もいる。幼い頃から、主への強い愛を持っている子もいます。親が忍耐を働かせ、これらの賜物に気づくことを祈ります。子どもを苛立たせたり落胆させたりするのではなく、それを育み、伸ばすように努めますように。「箴言22章6節」、

— 箴言 22：6 —

若者をその行く道にふさわしく教育せよ。そうすれば、年老いても、それから離れない。

キリスト教の新約聖書での表現方法は、キリスト教の信者は“その道”に従う。最も重要なことは、親が子どもたちに“その道”を教えますように。彼らを神の道へと。彼らの人生における最優先事項は、自分を愛する以上に、両親を愛する以上に、神を愛し敬うこと。父親や母親も、イエスが私たちを愛し、接してくださるように、子どもたちを愛し、接すること。子どもたちが主への信仰から離れても、試練や苦難の多い人生を経験するうちに戻ってくることを願い、祈ります。そうすれば、子どもたちを自分の行くべき“その道”に導くことができます。「エペソ人への手紙6章」、5節6節、

— エペソ 6：5 —

奴隷は（地上の）主人に従い、最善を尽くしなさい。キリストに仕えるのと同じようにしなさい。

— エペソ 6：6 —

主人の目の前でだけ一生懸命に働き、陰では怠けるようではいけません。神が望まれることを、心を尽くして行い、

— エペソ 6：7 —

（人のためというよりも）キリストのために働くように、いつも熱心に喜んで働きなさい。

— エペソ 6：8 —

あなたがたが奴隷であろうと自由人であろうと、良い行いには、一つ一つ主が報いてくださることを忘れないように。

— エペソ 6：9 —

主人も、いま私が奴隷たちに勧めたのと同じ態度で、奴隷を正しく扱いなさい。脅すばかりではいけません。自分もキリストの奴隷であることを忘れないように。

あなたがたの主も、奴隷の主も同じお方なのです。主は人を差別したりはなさいません。エペソ教会では、奴隷でさえ救われていたのです。社会的に奴隷には何の地位もなく、主人に仕えるだけの存在でした。奴隷を虐待する主人もいます。パウロはこれらの主人たちに、神の御目には、奴隷も主人も平等だと警告します。だから主人は奴隷を粗末にはしてはいけなと。聖霊はこれらの奴隷に住まわれます。聖霊がこの奴隷たちに住まれるから、彼らは主への喜びがありました。クリスチャンの奴隷たちは、救われていない奴隷たちの誰よりも、一生懸命働きました。彼らは救われていない奴隷仲間を愛し、虐待を受けても主人を愛するようにもなりました。彼らは、クリスチャンの奴隷としての人生が、彼らの証となることを望んだのです。イエス・キリストへの愛と称賛の証、主が彼らの人生に何をしてくださったかの。彼らは、自分たちが働くとき、神がそのすべてを見ておられることを知っていました。彼らは愛と感謝によって突き動かされていました。彼らの願いは、どのように自分が働くかで主を敬い、礼拝することでした。彼らは、主人たちだけでなく、仲間の奴隷たちにも悔い改めの境地に達し、救われるよう促したかったのです。こんにち、あなたが職場でクリスチャンとして働いているのなら、あなたがそこで最も働き者でありますように。もちろん、もう一人兄弟や姉妹が一緒なら別ですが。— (笑) — クリスチャンの雇用主なら、従業員を大切に扱いますように。私たちの召しとイエスと共に歩むのは、イエス・キリストの福音を広めるため。私たちがそれを達成できるのは、言葉だけでなく、私たちの行動、振る舞い、私たちが愛する方法です。「エペソ人への手紙 6章」、10 節 11 節、

— エペソ 6 : 10 —

最後に、覚えておいてほしいことがあります。あなたがたは、自分のうちにある主の全能の力によって強められるようにしてください。

— エペソ 6 : 11 —

悪魔のどんな策略にも立ち向かえるように、神のすべての武具で身をかためなさい。

— エペソ 6 : 12 —

戦う相手は、血肉を持った人間ではなく、肉体のない者たちです。すなわち、目に見えない世界の支配者たち、この世を支配する暗闇の大王たち、それに、天にいる無数の悪霊です。

— エペソ 6 : 13 —

ですから、いつどんな攻撃にも対抗できるように、神のすべての武具を用いなさい。そうすれば、すべてが終わった時も、なおしっかり立てるでしょう。

新しい信者は、イエスのもとに来たのだから、すべての問題が解決すると誤解しがちです。未信者たちも、神を愛するクリスチャンなら、人生に何の問題もないはずだと、勘違いします。真実は、イエスを信じる者は皆、この世で試練や苦難を経験します。神の御言葉を知り、主と歩み、主に仕える信者たちは、霊的戦いの現実を理解し、把握しています。敵からの攻撃は、彼らのクリスチャン人生において現実です。彼らはサタンが存在し、サタンが自分たちを滅ぼそうとしていることを知っています。悪魔は目に見えない霊的領域で仕事をします。イエスに従う私たちは、敵の攻撃の影響を確かに感じれます。この 1 週間ずっと感じていました。実は久しぶりなんです。無防備なまま、自分の力で悪魔と戦おうとすれば、負け戦になります。10 節でパウロは、敵と戦うときは、自分の力ではなく、神の御力と神のパワーで、強められるようにと教えます。神は私たちに、敵に勝つため、神の備えの武具を身につけるよう指示されます。

— エペソ 6 : 14 —

しかし、そのためには、(堅く立って) 腰に真理の帯をしめ、神の承認 (義) という胸当てをつけなければなりません。

使徒パウロは、ローマ兵の鎧を例に神の武具を説明します。鎧 (武具) は、クリスチャンが敵の攻撃から身を守ることを象徴します。パウロは「真理の帯」から始めます。真理は、堅く立つため最も強固なものと言われます。もう一度言います。真理は、堅く立つため最も強固なものと言われます。この最初の真理の帯は、兵士の脚の付け根の防護具、脚の防具ネット、ナイフや剣のさやを支えます。また、胸当てを固定する役割もありました。帯は、すべてのものを結びつけ、安定した強度を保つために極めて重要でした。敵である悪魔は、嘘と欺きの父で、私たちの忠誠を欲します。一方、イエスはその真理で、イエスが真理そのものです。イエスは完璧で、闇はあられません。嘘も惑わしもあられません。「ヨハネの福音書 14 章 6 節」、イエスが仰います。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。」神の真理は、神の御言葉で私たちの目に飛び込んできます。真理を人生の最前線に置くことは、私たちが常に自由にします。(ヨハネ 8:32 参照)

敵との戦いの中でも、私たちの安全を守ってくれます。胸当て、兵士の鎧は、身体の重要な器官、心臓、肺、腎臓を守るためです。これらの重要な臓器が攻撃されれば、死に至ります。心臓は私たちの体のエンジ

ンです。止まったら、私たちは死にます。霊的にサタンは、私たちの心を攻撃しようとします。ですから、私たちには義の胸当ての守りが必要なのです。クリスチャンとして私たちは、サタンが私たちの信念の心、信仰の中心を攻撃しようとするとも知っています。私たちに神を疑わせ、イエスを疑わせようとします。彼は、私たちが救いの真理を疑うことも望みます。神は私たちに、御子イエスによって私たちのために与えられた義、すなわち神が受け入れてくださる唯一の義の上に立つよう望んでおられます。私たちがイエスを救い主として受け入れるとき、イエスの義が私たちに付与されます。私たちが許されるキリストの血潮を神はご覧になります。私たちの罪をご覧になりません。私たちの罪ではなく、キリストの血潮をご覧になります。「ピリピ人への手紙3章」、8節と9節、

— ピリピ 3：8 —

主であるキリスト・イエスを知っているという、途方もない特権と比べれば、ほかのものはみな色あせて見えるのです。私は、キリスト以外のものは、がらくた同然と思っています。それは、キリストを自分のものとするためであり、

— ピリピ 3：9 —

もはや、良い人間になろうとか、律法に従って救われようとか考えるのはやめて、ただキリストを信じることによって救われ、キリストと結ばれるためです。

神が私たちを正しい者と認めてくださるのは、信仰—ただキリストだけを信じ頼ること—を持っているかどうかで決まるからです。ですから、真理の帯と義の胸当ては、私たちが戦うときに敵に打ち勝つための神の武具の堅固な構成要素です。サタンは、私たちが守られていること、神が与えてくださる武具で戦う準備ができていないことを知ると、逃げ去ります。「ヤコブの手紙4章7節」、

— ヤコブ 4：7 —

ですから、神の前に謙遜になりなさい。そして、悪魔に立ち向かいなさい。悪魔はしっぽを巻いて逃げ出すでしょう。

「エペソ人への手紙6章」、15節、

— エペソ 6：15 —

次に、平和の福音を伝えるために直ちに出発できる、丈夫なくつをはきなさい。

戦闘中にしっかりと立つためには、地面をしっかりと踏ん張り、体を安定させられる履き物・靴が必要です。スポーツでは、足が土台で、そこからパワーが生まれます。それがあなたのパワーの生じる場所です。兵士が効果的に戦えるよう、そのパワーを体に伝えるため、足は、地面にしっかりと固定する必要があります。パウロがここで述べている霊的な靴は、信者が前途に待ち受ける試練に備えるためです。彼らは進軍命令を受け、探し求め、迷っている魂に平安をもたらす福音を宣べ伝えるよう召されていました。改めて私たちは、イエス・キリストという岩の上に建てられ、しっかりと地に立つのです。私たちはより堅固な土台の上に足を置くのですから、敵との戦いに対して、神の御力で有利になります。そして神は、私たちに勝利を与えてくださるのです。私たちの願いは、この世に影響を与えること。邪悪な敵である悪魔に引き起こされる世界大戦が絶え間なく繰り返されているこの世に。でも、平和の福音の靴を履いた足で行って、福音を広めるよう召された者は幸いです。「イザヤ書52章7節」、

— イザヤ 52：7 —

良い知らせを伝える人の足は、山々の上にあって、なんと美しいことか。平和を告げ知らせ、幸いな良い知らせを伝え、救いを告げ知らせ、「あなたの神は王であられる」とシオンに言う人の足は。

「エペソ人への手紙6章」、16節17節、

— エペソ 6：16 —

どんな戦いにも、守りの盾として必要なのは信仰です。これがあれば、サタンが射かけてくる火矢を消し止めることができます。

繰り返しますが、クリスチャンである私たちは、サタンとその手先から攻撃され、嫌がらせを受けます。敵は絶えず、私たちに火の矢を放ちます。信者として私たちは、霊的傘が必要です。敵の攻撃から頭と思考を守る盾が必要です。サタンは全知ではありません。すべてを知っているわけではありません。彼にはわかりません。彼は私たちの思考を読むことはできません。しかし、彼は人間の本質を理解しています。彼は私たちの弱さを知っています。なので、罪の考えや誘惑、嘘で私たちの思考に影響を与えることができます。

「ヨハネの福音書13章2節」を思い出してください。悪魔はユダの思考に入って、イエスを裏切るように仕向けました。兜という霊的武具で思考を守る必要があります。ローマ兵は、スクトゥムと呼ばれる盾がありました。その盾は、敵の猛攻や大量の矢を跳ね返すことができます。また、剣で戦う兵士や飛んでくる槍から兵士を守る役割も果たしました。信仰の霊的盾が、敵が絶えず投げつけてくる炎のような熱い矢から私たちを守るのです。私は人生で、サタンの攻撃は、たいてい仕事の前か最中にやってくることに気づきました。特に、私が携わっている聖書の学びの準備の。その攻撃は、葛藤、混乱、悩み、誘惑、さらには恐れ

や怒りという形でやってきます。何かがうまくいかないと、うまくいきません。しかしながら、また経験したのは、神が神の聖霊によって、いつも乗り越えさせてくださいます。主はいつも、私が成功し、勝利を手にする道を作ってくださいます。私たちの救いは、信じる信仰によって始まりました敵との戦いにおいて、神が共にいてくださると信じること。私たちを守り、見守り、勝利をもたらす神のご忠実さを何度も何度も目にしてきました。そして私たちは、神が決して約束を破られないと、疑いなく信頼できるのを知ります。神は破ることはお出来になりません。神であられるからです。ローマ軍は、盾を横に並べて重なるように作りました。何人かの兵士は、盾を頭の上に掲げるように命じられました。これは、盾の間や上方から侵入する矢から兵士たちを守るためです。盾を重ねた兵士の陣形は、ファランクス（密集陣形）と呼ばれました。ファランクスの映画を見たことがあって、見ていてすごい光景でした。美しいです。箱のようになって、前進する。彼らは前進するだけで、敵はただ倒れる。敵がね。クリスチャンは愛の御霊で団結すべきです。

「エペソ人への手紙」の学びでそのことをたくさん話してきました。私たちはサタンとの戦いに互いに支え合う。私たちは、足並みを揃えて歩む兄弟姉妹として団結するよう召されています。私たちの証しを弱体化させ、信仰を破壊しようとするサタンの策略による多くの困難に直面します。「伝道者の書4章12節」にこうあります。

一 エペソ 4：12 一

一人なら打ち負かされても、二人なら立ち向かえる。三つ撚りの糸は簡単には切れない。

”三つ撚りの糸は簡単には切れない。”3本はなお良いです。だからこそ、互いに愛し合い、一致団結することが重要なのです。すると、神が私たちを召された召しにふさわしい歩みができます。「マタイの福音書18章」に、教会で誰かと問題があった場合、私たちはその人に近づき、その問題を正し、平和をもたらすように努めねばならないとあります。それが愛というものです。私たちはクリスチャンとして、敵の攻撃を防ぐことができるよう、教会のファランクス（密集陣形）を作る。一致団結して彼に勝利しましょう。なぜなら、彼は神に関するすべての事柄を破壊しようとしているからです。「エペソ人への手紙6章」、17節、

一 エペソ 4：17 一

また、救いのかぶとをかぶり、御霊の下さる剣である神のこたばを手にしなさい。

そう、脳は生命を維持するため最も重要な臓器で、司令塔の役割を担います。心臓、肺も重要なように、脳は呼吸、心拍数、血圧などの機能を調節します。当時の兜は、戦いで飛んでくる木、金属、盾、馬、石、ハンマーから脳を守りました。神が私の思いを守ってくださった霊的救いの兜に感謝します。主は、私たちが迷わないように、私たちの思いを守ってくださいます。新しい信者はサタンの攻撃に弱く、サタンの策略にかかりやすく、彼らの思いを大混乱に陥れます。神が与えてくださるすべての武具を使って勝利を得るためには、まず救われる必要があります。あなたが新しく生まれ変わり、イエスを救い主として受け入れると、聖霊が内におられ、勝利を達成するため、私たちの中で働くことがお出来になります。救われていない人の思いは、世と世の物事に焦点を当てます。新生し、再生した人は、キリストのことを考えます。救いの兜をかぶりましょう。そして、救われていない他の人々に永遠の命を提案する。ここまでの武具はすべて、敵の攻撃への防御でした。スポーツの世界では、強い守備が優勝すると言われていました。神の霊的武具の中で、御霊の剣である神の御言葉は、防御と攻撃の両方に使われる武具です。剣は前に突き出し、攻撃し、敵から身を守ることができます。神の御言葉は、強力な防御の武具にもなります。聖書には、神の御言葉を表す2つのギリシャ語、ロゴスとレーマがあります。ロゴスは、神の書かれた御言葉「教え」で、レーマは、神の御言葉が言語化された「語りかけ」。ロゴスとは神の御言葉の内容で、神が作者で人間によって記された聖書です。一方、レーマは、神の語られる御言葉です。神の御言葉は、暗記したり話したりするとき、剣のような攻撃的武器にたとえられます。あなたが神の御言葉を鋭い剣のように語ると、欺瞞に切り込み、嘘に、悪魔の策略に切り込み、神の真理を明らかにします。イエスが荒野で40日間おられ、誘惑されたとき、悪魔の欺きと嘘を打ち破るために神の御言葉を用いられたことを、覚えています。(マタイ4章)

だから、クリスチャンも、敵と戦う際、剣（御言葉）を振りかざし、振るうことができます。18節、

一 エペソ 6：18 一

どんな時にも祈りなさい。どんなことでも、聖霊の考えにそって神にひたすら願い求めなさい。各地に散っているすべてのクリスチャンのために、熱心に祈り続けなさい。

一 エペソ 6：19 一

また、私のためにも祈ってください。主のことを大胆に告げる時に、また、主の救いは異邦人にも及ぶと説明する時に、適切なことばが与えられるよう祈ってください。

一 エペソ 6：20 一

私は今、神に託されたこの福音を伝えたために鎖につながれています・・・

(パウロはローマで投獄されてこの手紙を書いています。)

・・・しかし、この牢獄の中でも、語るべきことを、主のために大胆に絶えず語れるよう祈ってください。

使徒パウロはローマの牢獄に閉じ込められ、監禁されています。肉体的には拘束されていますが、霊的には主の喜びに満たされています。主への愛のゆえに。彼は、他の囚人たちにも影響を与えたであろう、自分の悲惨な境遇をくどくどと考えません。彼は他の人のことを考え、エペソのクリスチャンに、キリストにある兄弟姉妹のために定期的に祈るよう頼みます。エペソ人は霊的鎧を身に着け、戦いの準備はできています。彼らは、膝をついて戦うことになりました。彼は当時のエペソ人に、そしてこんにちの私たちに、警戒し、見張り、祈るよう求めます。私たち自身のためだけでなく、各地に散っているクリスチャンのために。パウロは他の教会を始め、祈りの力が信者の人生の結果に影響を与えることを知っていました。パウロは、何千キロも離れた場所に住む聖徒たちのために祈りながらも、その聖徒たちに届く神の力を知っていました。御霊で祈るとは、神の御力で、神の御心に従って祈るということです。神は全能で、遍在なさいます。神は全知全能で、同時にどこにでもご存在されます。主は、私たちが主に目を向け、主に頼ることを愛しておられます。主は、私たちクリスチャンが、人生のあらゆる必要を主に求めることを愛しておられます。パウロは、エペソの聖徒たちや、パウロが立ち上げ、パウロが手紙を書いた他の教会の信徒たちの祈りを頼りにしました。パウロは、自分のために祈ってくれるエペソの信徒たちがいます。でも、それは自分のための祈りではありませんでした。それは利己的な祈りではなく、福音を伝える言葉と大胆さを神に与えてほしいという無私無欲の祈りでした。パウロが主のために果敢に成し遂げた英雄的行為を多くの書簡で読んできましたね。彼が成し遂げたことすべてにおいて、彼が示した強さと大胆さの源は、決して自分自身ではなかった。彼は常に、自分が神に導かれ、神に強められていることを知っていました。神はパウロの働きを祝福されました。常に祈りに浸っていたからです。パウロはよく祈る人でした。彼は祈りの戦士。彼は熱心に祈りました。パウロは兄弟たちにも加わってもらい、主に嘆願しました。私たちが常に神を第一に考え、神に召されたことを成し遂げるため、自分の力ではなく神の御力に頼ることができるよう。また、私たちがどんなことでも、あらゆることを、祈り続けるのを決してやめませんように。「第一テサロニケ人への手紙 5章」、16 節から 18 節にこう書かれています。

— I テサロニケ 5 : 16 —

いつも喜びにあふれていなさい

— I テサロニケ 5 : 17 —

いつも祈りに励みなさい。

— I テサロニケ 5 : 18 —

どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにあって、神があなたがたに望んでおられることです。

「ローマ人への手紙」は、私たちが御霊によって祈る必要性を確かにします。「ローマ人への手紙 8 章」、25 節から、

— ローマ 8 : 25 —

しかし、まだ起こっていないことを待たなければならないのなら、忍耐をもって、確信して待ち望むのです。

— ローマ 8 : 26 —

御霊も同じようにして、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、何をどのように祈ったらよいかさえわからないのですが、御霊は、ことばに表せないほどの深い同情と理解をもって、とりなしてくださるのです。

— ローマ 8 : 27 —

すべての人の心を知っておられる父なる神は、御霊が私たちのために、神ご自身のお心にかなう願いをささげてくださいる時、その願いの意図をもちろん知っておられます。

— ローマ 8 : 28 —

私たちは、神を愛し神のご計画のうちに歩んでいる人のためには、その身に起こることはすべて、神が益としてくださることを知っているのです。

— ローマ 8 : 29 —

というのは、神はあらかじめ、ご自分のもとに来る人を知っていて、そのような人々がご自分の御子と同じになるように、最初から定めておられたからです。それは、御子イエスを多くの主を信じる者たちの長子とするためでした。

「第一ヨハネの手紙 5 章」、14 節と 15 節にこうあります。

— I ヨハネ 5 : 14 —

私たちは、神の御心にかなうことを願い求めるなら、いつでもその願いを聞いていただけると確信しています。

— I ヨハネ 5 : 15 —

私たちの願いに確かに神が耳を傾けてくださっているとわかれば、神は必ずその祈りに答えてくださると確信できるのです。

21 節 22 節、パウロは、エペソの信徒への手紙を書き終えます。

— エペソ 6 : 21 —

心から愛する信仰の友、主の仕事のための忠実な協力者テキコが、あなたがたに私の近況を残らず知らせてくれるでしょう。

— エペソ 6 : 22 —

テキコをそちらへ送るのは、私たちの様子を知ってもらい、それを励みにしてほしいからです。

23 節 24 節、

— エペソ 6 : 23 —

どうか、クリスチャンの皆さんに、父なる神と主イエス・キリストからくる、信仰による平安と愛とが注がれますように。

— エペソ 6 : 24 —

どうか、神の恵みと祝福が、主イエス・キリストを心から愛する、すべての人にありますように。

パウロ主を愛する私たちは、神の私たちへの愛を決して忘れません。御子イエスの受けた痛みは耐え難いものでした。「第一ヨハネの手紙 4 章」、9 節 10 節、

— I ヨハネ 4 : 9 —

神は、かけがえのないご自分のひとり子をこの世に遣わし、そのひとり子の死によって、私たちに永遠のいのちを与えてくださいました。そのようにして、どんなに私たちを愛しておられるかを示されたのです。

— I ヨハネ 4 : 10 —

神に対する私たちの愛ではなく、私たちに對する神の愛によって、私たちの罪へのなだめとして、神のひとり子が遣わされました。ここに真の愛があるのです。

今夜、私たちは聖餐式を祝います。今からするのは象徴です。一部の偽教師が教えているような実際のイエスの血潮や御体ではありません。パンと杯は、イエスが私たちのためにしてくださったことを象徴的に表します。十字架上で私たちのために捧げられた犠牲を思い起こす時です。イエスに、ありがとうと言う時です。与る時、イエスの砕かれた御体を思い出します。骨は砕かれていません。しかし、イエスに課されたのは、多くの裂傷と杭。イエスは仰いました。「私たちは、天国で再びイエスとの交わりにあずかります。」

「ルカの福音書 22 章」、15 節と 16 節にそのことが記されています。

— ルカ 22 : 15 —

イエスは彼らに言われた。「わたしは、苦しみを受ける前に、あなたがたと一緒にこの過越の食事をすることを、切に願っていました。」

— ルカ 22 : 16 —

あなたがたに言います。過越が神の国において成就するまで、わたしが過越の食事をすることは、決してありません。」

このことは将来実現します。「子羊の婚宴」で。携挙後に。もうまもなくです。私は祈っています。イエスが裏切られた夜、イエスは使徒たちを集めて、過越の祭りの夜に「主の晩餐」を始められました。イスラエルの民が奴隷労働の主人たちの残酷な仕打ちから解放されたように、イスラエル全体がエジプトの束縛からの脱出を記念する夜。クリスチャンもまた、イエスが私たちのために犠牲になられたことで贖われ、自由にされるのです。イエスは地上にお生まれになり、青年時に、大工仕事をされ、そして、宣教を始める時が来ました。その宣教の間、神の子であるがゆえに持っておられる神の御力を世に示されました。その奇跡と癒しの御業は、イエスが誰であるかを疑う余地はありませんでした。彼はメシア・キリストで、世の救い主となるため父なる神によって油を注がれたお方です。信じた者は救われ、祝福され、天国でイエスと御父とともに永遠に過ごすこととなります。しかし悲しいことに、多くの人がイエスを拒絶しました。イエスが神から遣わされたことを知っていた宗教指導者たちでさえも。「ヨハネの福音書 3 章」にあるニコデモはユダヤ人の宗教指導者についてをイエスにそう言いました。ユダヤ人の指導者たちは、イエスがどなたかを知っていましたが、イエスの存在が彼らの権力を脅かすものでした。それで彼らはイエスを拒絶しただけでなく、十字架につけた。でも、イエスを十字架につけて死なせたのは、ユダヤの指導者たちやローマ人たちだけではありません。今夜ここにいる私たち全員、そしてオンラインの方全員です。私たちの罪のせいで、イエスが十字架にかからねばならなかった。その責任は私たちにあります。当時のローマ人やユダヤ人を指差すことはできません。その非難の矛先は、人類史上のすべての人間に向けられます。シンプルな罪の告白と、私たち一人一人からの感謝の言葉が主を祝福すると確信します。聖餐式に与る前に、私は、イエスを主で救い主として受け入れていない人に招待状を送りたいと思います。「ローマ人への手紙 3 章 23 節」にこうあります。

— ローマ人への手紙 3 章 23 節 —

「すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、」

(裁きの日、自分で罪を償う。)

救い主を拒絶する者には、死が宣告され、地獄が永遠にあなたの住処となります。

ーローマ人への手紙 6 章 23 節ー

「罪の報酬は死です。しかし、神の賜物は私たちの主キリスト・イエスによる永遠の命です。」

永遠の罰ではなく、神はあなたを死の宣告から救い、ご自身と共にある永遠の命を与えたいと願っておられます。しかし、信仰によってイエスに呼びかける必要があります。主が十字架上でなされたことを信じる。あなたが救われるために、主があなたのために死なれたこと、主が葬られ、3日目によみがえられたことを信じる。準備ができていれば、ご自分でイエスに呼びかけられます。待たれないことを祈ります。あなたが望むなら、今ここで、イエスを主で救い主として受け入れる祈りに導かせてもらえたらと思います。この礼拝堂にいるあなたも、オンラインのあなたも、誠実になれば、神は聞いてくださいます。そうすれば、私たちと一緒に聖餐式のテーブルにつけます。これは、私たちの主イエス・キリストと、イエスが十字架上で私たちのためにしてくださったことを思い起こし、尊ぶ信者のためのものです。だから今、礼拝堂にいるあなた、あるいはオンラインのあなた、私の後を繰り返してください。誠実であれば、神は聞いてくださいます。頭を下げましょう。救われたいと願う方は、私と一緒にこう祈ってください：主イエスよ、あなたが必要です。信仰によって、私はあなたが私を愛しておられると信じます。父なる神様、あなたの御子を遣わしてください。ありがとうございます。イエスよ、ありがとうございます。私の罪を取り除くため、あなたは命をかけてくださいました。だから私は、天国で永遠にあなたと共にあれるのです。私の主になってください。私の救い主になってください。あなたの御霊によって私の人生を導いてください。私を救ってください。ありがとうございます。イエスの御名によって祈ります。アーメン。イエスに呼びかけたあなた、おめでとうございます。あなたはもう家族、神の家族です。では、一緒に聖餐に与りましょう。「第一コリント人への手紙 11 章」23 節から、

ーIコリント 11：23ー

私は主から受けたことを、あなたがたに伝えました。すなわち、主イエスは渡される（裏切られる）夜、パンを取り、

ーIコリント 11：24ー

感謝の祈りをささげた後それを裂き、こう言われました。「これはあなたがたのための、(砕かれる) わたしの中からです。わたしを覚えて、これを行いなさい。」

聖餐式セットの上の部分を開けて、お待ちください。(イエスの御体の象徴の) パン、ウェファーを出してください。

天のお父様、あなたの御座の前に参ります。主よ、あなたが私たちのためにしてくださったこと、あなたがどのように痛めつけられ、傷つけられたかを思い出します。頭にはいばらの冠、脇には槍、釘(杭) 打ちや鞭打たれた裂傷、あなたは私たちのために受けられました。主よ、私たちは決して忘れません。感謝します。このパンが、砕かれ打ち砕かれたあなたの御体を象徴します。あなたを愛する私たちは、あなたに感謝します。一緒に与りましょう。

ーIコリント 11：25ー

食事の後、同じように杯を取って言われました。「この杯は、わたしの血による新しい契約です。飲むたびに、わたしを覚えて、これを行いなさい。」

ーIコリント 11：26ー

ですから、あなたがたは、このパンを食べ、杯を飲むたびに、主が来られるまで主の死を告げ知らせるのです。

セットの下の杯を開けてください。また、一緒に与ります。お待ちください。主よ、あなたの御座の前に参ります。私たちのために流されたあなたの血潮を決して忘れません。主よ、本当に心から感謝します。主よ、私たちの罪の結果によって、あなたを苦しめてしまい、本当に申し訳ありません。主よ、今の私たちに、世界中に福音を広めさせ、人々に手を差し伸べさせてください。主よ、私たちはあなたを愛し、あなたが私たちのためにしてくださったこと、私たちのために流された血潮を思い出し、決して忘れません。イエスの御名によって祈ります。共に与りましょう。

カポノ、上がってきてください。皆さん、ご起立ください。お父様、私たちはあなたの御前に参り、主よ、今夜の御言葉に感謝します。主よ、約 2000 年前、あなたが私たちのためにしてくださったことを記念し、思い出せることを感謝します。ですから、私たちはあなたの御前であなたを賛美し、あなたに感謝し、あなたをどれほど愛しているかを伝えます。あの十字架、あなたが私たちのためにしてくださったことを決して忘れません。聖霊よ、今夜、私たちを無事に帰宅させてくださいますように。また、私たちの交わり時間を祝福くださいますように。そして主よ、今夜仕えるために来た人たちをもお守りください。私たち

はあなたの御前で、今夜あなたが私たちに教えてくださったこと、私たちに御子を思い起こさせてくださったことに感謝します。イエスの御名によって、これらのことを祈ります。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師 カルバリー・カネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7